iPhoneとiPad、その林檎とスティーブ・ジョブズ

hagakure

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ｉＰｈｏｎｅとｉＰａｄ、その林檎とスティーブ・ジョブズ

【Ｎコード】

Ｎ５７８６Ｏ

【作者名】

ｈａｇａｋｕｒｅ

【あらすじ】

この物語はあろうことかａｐｐｌｅと何の関係もありません。

携帯電話の液晶部に張られている透明膜のシールを、未だ購入当時のまま貼り付けている師岡に、私はこう問いただしたのだった。

「お前、その携帯いつから使っているんだ」

「一昨年の暮れ」

液晶型インターフェイスの寿命なんてのは今や短命で、携帯で二年、パソコンで五年、ゲーム機だとか携帯音楽プレーヤーなんかも大体そのくらいのものだろう。新製品を購入すればまた新製品が欲しくなり、もう少し待とうと知略を尽くせばもうなんかもっとすごいのが台頭してきてやっぱりまたもう少し待とうスパイラルに陥ってしまう。贅沢な悩みである。

師岡に至ってはもう家電マニアとでもいうのか、まあ実にプチブル的な、ブルーレイの付いたソニーのでかいテレビジョン、ｉＰｏｄ、ｉＰｈｏｎｅ、ｉＰａｄ、マッキントッシュの馬鹿でかいの、極薄の、とどこぞのクリエイターといった様相であるが、そのいずれにも透明膜のシールがデフォルトのまま張り付いているのであるから、実に貧乏臭い。

「で、そのシールはいつまでつけているのだ」

「一生」

私が生を受けたのは海と山と巨大な石油タンクに囲まれた小さな共同体で、そのような田舎町ではどの家庭でも透明膜のシールを剥がしているものは無かった。あまつさえリモコンなどのシールが経年

劣化してきた際などは“更に上からサランラップを巻く”というような土着的な古くからの因習というのがあった。私はこの閉鎖的な片田舎にあって幼少より疑問だったのだが、つまりシールを剥がされずに寿命を全うした家電たちというのは、その輝きを、機能を、真実を、十分に発露することなく、あまりに大切にされるばかりに、あまりに傷つくことを恐れられるばかりに、未消化のまま役割を終えていく。これは全体、不全ではなかろうか。

「では聞くが師岡、お前はそのフィルター越しに見たｉＰｈｏｎｅの液晶に満足しているのか」
「では逆に聞くが、お前はこの世界の全てが明晰に見えている、とでもいうのか」
「見えていないからこそ善処するのだ。例えば眼鏡をかけている。しかし、お前はどうだ」
「俺は…俺は…」

そう呟くと師岡は磨耗によって黒ずんできたｉＰｈｏｎｅのディスプレイを愛おしそうに撫で付け、自身の全身にぴたりと張り付いた透明膜のシールを頭頂部から剥がし始めたのだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5786o/

---

iPhoneとiPad、その林檎とスティーブ・ジョブズ

2010年10月30日00時54分発行